



ジョグジャカルタ特別州バントゥール県サンデン郡における

学校教員の防災教育実施訓練事業

● 背景・ニーズ

2006年5月27日の震災以来、インドネシア・ジョグジャカルタ特別州ではインドネシア国内外の多くの支援団体が多様な方法で援助・支援活動を行っています。緊急支援段階を経て、現在では多くの支援団体が学校防災教育の普及に焦点を当て、災害に対して特に脆弱である子供たちの命を守るための学校防災教育の意義や重要性を普及させる活動を行っています。

シーズ・アジアのスタッフは2008年の10月15日から24日にかけてジョグジャカルタ特別州を訪れ、最も被災被害の大きかった県の一つであるバントゥール県で、学校防災教育の現状や他団体の支援活動について、県教育局や現地NGO、および学校職員に対する聞き取り調査を行いました。

そうした事前調査の中で、様々な団体が学校防災教育に関する訓練のためのワークショップや質の高い学校防災教育用の教材の作成およびバントゥール県全土への配布を完了していることが明らかになりました。しかしながら、そうした数多くの訓練ワークショップの実施や質の高い教材の配布が行われたにも関わらず、聞き取り調査中に明らかになったもう一つの事実は、実際に学校防災を実施している学校数は未だにわずかであるという状況でした。

バントゥール県における事前調査や他団体からの資料収集に基づき、シーズ・アジアは、バントゥール県の学校防災教育普及に向けて、以下のニーズを充足することを基軸に事業を展開します。

(1) 学校現場での実践的な訓練の必要性

聞き取り調査中に判明したことの一つは、学校教員に対する防災教育実施のための訓練は、そのほとんどがワークショップ形式で行われてきたということでした。また、ワークショップの形式ではない、実際の学校現場での訓練が行われた割合は20%にも満たないということも判明しました。こうした状況を踏まえ、生徒を交えたかたちでの学校現場での学校教員に対する実践的な訓練の実施が、教員が自信を持って学校教育を実施するために必要とされています。

(2) 教員の指針となる手引書の必要性

多くの支援団体によって、教員が学校防災教育授業で生徒に配布して使用するための優れた教材が作成されています。しかしながらそれらの教材は、その品質の高さにも関わらず、現在のところ広く使われているとは言い難い状況です。そうした教材が幅広くかつ効果的に使用されるためには、教員が防災授業を実施するに際しての指針となりうる手引書を作成・配布することが不可欠です。

(3) 地域および行政からの理解・協力体制の必要性

学校教員に対する訓練と手引書の作成に加えて、学校教員が防災授業を行いやすくなるような、行政や地域住民からの理解と支持を得るといった環境づくりが、学校防災教育の普及にとって重要です。学校側が防災授業を実施するに当たり、その地域から十分な理解を得られていることは必須であるため、地域住民からの防災に対する意識を高め、防災教育に対する理解を促進することは、学校防災教育普及における一つの要であると言えます。

● 事業目的・活動内容

当事業における主要な目的は、バントゥール県の小学校の教員が、学校防災教育を自信を持って自校の生徒に行えるようになるための能力開発を行うことにあります。この目的を達成するために、当事業では以下の活動を行います。

(1) 学校教員に対する訓練

- (a) サンデン郡の3つのターゲット校の学校教員に対して、彼ら自身の学校で、防災教育コンサルタントを通して学校防災教育実施に関する実践的訓練を実施します（第1回防災授業訓練）。
- (b) 2-3ヶ月後の異なる学期中に、第1回防災授業訓練に参加した教員に対して、第1回防災授業訓練と同内容の訓練を再度実施します。しかし2回目の訓練では、学校教員は基本的に自立したかたちで主体的に防災授業を実施します。



(2) 学校教員のための学校防災教育手引書の作成

教員のための学校防災教育手引書は、学校防災教育を教員がどのようにして実施すべきかについての詳細な手順を示すものであり、幾つかの学校防災教育プログラムについての手順が記載されます（学校防災教育プログラムの例：避難訓練、タウンウォッチ・防災マップ、防災に関する基礎教育、など）。当事業において実施される学校防災教育の内容は、バントゥール県下の小学校でのニーズ調査を反映したかたちで決定されます。

(3) 学校防災教育に対する意識向上のための2度のワークショップ開催

学校長や学校教職員、州・地方政府職員、大学関係者、地元 NGO 職員、およびその他の学校防災教育に関係する様々な主体からの理解と支持を得るという目的で、当プロジェクトでは2度のワークショップを開催します。

- (a) 第1回目のワークショップは、第1回防災授業訓練のすぐ後に開催されます。このワークショップは、主に事業対象地からの100名程度の防災教育関係者を招集しつつ、郡レベルでの学校防災教育に対する理解の促進および意識の向上を図ることを目的として開催されます。
- (b) 第2回目のワークショップは、第2回防災教育が行われた後での、事業末期において開催されます。このワークショップは、主に県・州レベルでの学校防災教育に関する理解の促進を主要な目的として開催されます。事業対象地の郡やその周縁の郡、および県・州政府職員、地元 NGO 職員、そして研究機関職員等の、ジョグジャカルタ特別州全土の防災教育関係者が、参加者として召集されます。

● 事業実施スケジュール

当プロジェクトは2009年3月から2009年9月末までの7か月間に渡って実施されます。

活動 / 月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
現地学校職員・住民意識調査							
防災教育手引書作成		開始					完成
防災教育授業訓練実施				第1回	第1回	第2回	第2回
ワークショップ実施					第1回		第2回

SEEDS Asia とは

SEEDS Asia（神戸市）は被害の対象となり易いコミュニティを、災害に強いコミュニティにするお手伝いをする NGO 団体です。私たちは「コミュニティ」に基盤をおき、意識啓発、トレーニングと実践、最も災害に弱い人々に対する適切な手法と技術の提供、知識と技能の共有、実践者同士の繋がりでの推進といった活動を通じて、命の損失と被害による苦しみをできる限り予防するために、災害対応能力向上の観点からコミュニティ支援活動をしています。

SEEDS Asia は「人間の安全保障」という包括的枠組みの中で、災害管理と環境保護を進展させ、これらの相互関係に重要性を置きつつ、アジア太平洋地域の安全なコミュニティ創造を目指しています。インドと日本の両国において正式に NPO 登録した SEEDS は、専門性の高いメンバーの多岐にわたる知識を活かして、コミュニティ防災を推進しています。